# 京城新聞

## 妄言妄評 (六)

栗嶽生

▲拓植總裁 としての宇佐川將軍は前號に評したる如く、桂首相との關係淺からざると、伊藤公に親善なるとに於て、事業の進行上圓滿なるべきを以て先づ適任とせざる可らず、而して將軍が軍政家たると共に實利的方面の知識と趣味を有するの點に於て更に好箇の總裁たらん乎、殊に韓國人に對して昔日の關係よりして信望を有するを以て渠等の反感を買ふこと尠くなければ、經營上に幾多の便宜を有するならん、拓植會社の事業たるや我軍事上に多少の關係する處あり、殊に北韓方面に於ては駐剳軍との交渉案件も生ずべし、此等の點に於ても將軍が總裁たらば圓滿に事を運ぶべし、斯く觀察し來れば將軍は何人が見るも恰當なる總裁たるべき乎、吾人が唯懸念するは將軍が陸軍部内前途有望なる身を以て、光榮ある現職を拋て實業界に入るは果して其眞意なりや否やにあり、聞く拓植會社の事業に就て發表せられたる意見を見れば、將軍は進んで此經營に當らんとするものゝ如し、惟ふに將軍が進んで此經營に當らんとする所以のものは、帝國の大陸經營が急を要するを以て、之に盡瘁するは光榮ある現職に留るよりも須要なりとせられたるに非ざる乎今や拓殖會社創立の時期も迫れり、將軍が總裁としての技倆を見るも亦遠からざる也

▲後藤男と宇佐川男 或る人は云ふ、宇佐川將軍の總裁たるや、後藤男の滿鐵總裁たるが如き目覺ましき働きはなからん、從て其事業の成蹟も後藤男の如くなる能はざるべしと、或は然らむ、然れども將軍の遣口は後藤男より堅實なるべし、後藤男の如く花々しき仕掛なく、從て後藤男の如く一時に朝野の人望も一身に集るが如き、演劇的の仕事は出來ざるも著實なる方針によりて漸次に發展せしむるの點に於ては却て後藤男に優るものあるべき乎、後藤男は常に英雄の姿を以て人心を收攬するに勤むるも、往々人を毛嫌ひする傾きありて、其人格に於て小なる所あるを感せしむ、將軍は後藤男の如き英雄的態度なきも、人を毛嫌する事なく何人に接するも同樣の態度なり、故に後藤男が部下に人を撰むの方法と、將軍の部下を撰拔すると自ら異る所あるなり後藤男は花やかなる政治家なり、將軍は質實なる軍政家なり、實業會社の總裁としては却て將軍を以て優れりとせざる乎、後藤男は會社の總裁たるよりも政治家たるを可とす、後藤男は政畧に富む、人心を收攬するの術に長せり將軍は政畧よりも實行を主とせらる、人心を得るの點に於ては稍々後藤男に劣れり、故に將軍には山氣なし、從て其行動花々しからざるなり、今や後藤男は遞相となり、宇佐川將軍は拓植總裁たらんとす或は各其の所を得たりと云ふべき乎

## ●七月中の京城商況

(京城日本人商業會議所)

當地商況は毎年七八兩月を通して不活潑なるを免かれず今本月に於ける商況を調査するに前月に引續き不振にして著しき變動なく加之十九日以來殆ど半ヶ月に涉る霖雨の爲め韓人の入京者少なく前月に比し各品共賣行捗々しからず隨つて集金意の如くならず各店とも困難の模樣なり然れども一面久しく沈靜なりし大小豆小麥の如き本月に入り相應の出廻りあり且つ追々母國味噌醬油の釀造期に近づきたるを以て望手多く近來珍らしく取引あるに至れりも亦た酒類食料品等を始め呉服類及建築材料等相應の賣行あるも昨年の同期に比すれば約二割以上賣行減少を見たり今各品に付商況を摘記すれば

●玄白米● 本月に入りては玄米は品薄となり出廻り少なく從つて相場も前月に比し石に付二三十錢方騰貴し白米は引續き需用多きも現金主義を採り相互間競爭の結果玄米相場の騰貴したるに係らず相場は依然として動かず品薄の爲め强含みにて越月せり

●大麥● 弗々出廻りあるも大口の取引を見ず市場閑散の狀態にあり相場は前月より石に付二三十錢方騰貴せり

●小麥● 本月は出廻りも相應にあり母國醬油釀造期に入りたる爲め需用者多きを見たり

●大豆● 本月は出廻り相應にあり小麥と同樣醬油釀造期に入りたる爲め市場活氣を呈し現品拂底の有樣なりき相場は前月に比し石に付三四十錢方下落を示せり

●小豆● 大豆の好況に伴ひ相當望手現はれ面白き手合を見に至り相當の取引ありたり相場に於ては石に付二三十錢方下落を示せり

●和洋金巾● 本月は例年閑散なる月にして最も沈靜の狀態にて相場に於ても更に變動無し

●紡績糸● 本月は前月に於ける農繁期以來引續き暑氣頓に加はり剩へ十九日以來の霖雨にて韓人の入京者尠なく賣行皆無の姿なりしも母國好況に連れ相場に於ては前月より强含みにて越月せり

●砂糖● 邦人の盆闇前に際したる爲め卸賣に在ては需用多きを見越し相應の取引あり相場は前月と變りなし

●麥粒● 本月も前月に引續き相應の賣行あり相場は幾分强含みを呈せり

●日本酒● 時候柄暑氣の爲め一般に需用少なく玆一二ヶ月間は例年の通り好況を見る能はざるならん相場に於ては變動なし

●麥酒● 本月は時候柄各種共益々需用增加し賣行最も良好なり就中札幌、キリンは益々好況を呈しつゝあり相場に於ては變動なし

## 小説　新不如歸 (八十二)

篠原嶺葉著

青木大將の質問に對して、西脇は感慨の情を面に現し、

「御不審は御道理でありますが、小官の父、義俊も陸軍少將に職を奉じて居りまして彼の日清の役にはこの遼陽の野に出征致し、多少の戰功もあつたのでありますが三國同盟干渉の結果、折角我が領土に歸した遼東半島を、泣なく還付する事になつたを憤慨致しまして。」と述べ來つて聲を曇らせ、「世にも哀な最後を遂げましたが、其時小官に一書を遺しまして、他日若も三國の何れを問はず、干戈の間に見ゆる事があれば必ず我が遺志を襲いで、帝國の汚辱を雪げと呉々も誡めましたゆゑ、それより後と云ふものは、父の妄執を晴してやらんと、密に時機の到るを待つて居りました、しかるに日露の風雲は幽なくも滿洲事件より起りまして、到底干戈の間に見ねばならない雲行になりましたから、亡父の遺志を果すは此時機であると竊かに腕を扼して居りまするに、意外にも露國陸軍大臣クロパトキン將軍が、瓢然と我國に來遊しまして、播州須磨の浦に於いて釣に遊んで居ると云ふ報道に接しましたので豫々計畫して居りました一葉の圖面を携へて、播州の須磨に行きまして、近邊の漁人風に扮しまして、旨くクロパトキンに近いて其圖面を一萬留に賣渡し、其上に彼男から東京灣に對する要塞の圖面が手に入れて欲しいと云ふ頼でありましたから、一萬五千留の報酬金と萬一圖面を賣渡した秘密が露顯した際は滿洲若くは露國へ逃走するから、一身の保護を爲て下れろと云ふ二つの條件を置はせまして、一週日の後に圖面を製へて横濱に於て手渡し致しました、所が小官が漁人の姿に扮して圖面を賣て居る所をクロパトキンの接待員として出張して居られた、足柄少佐殿に見付られたものと見ゑまして、夫より十日ばかりも過て小官の宅に來て、それを材料に三千圓の金子を強請つて歸られましたが、其後程なく小官は突然休職となりましたゆゑ、これは必然秘密が露顯したに相違ないと思慮まして休職になつた翌日此の遼東へ渡つて豫てクロパトキン將軍から認めて貰つて置た、アレキシーフに宛た書面を持參して、旅順港の司令部に行つて暫時遊んで居りますると、到頭談判破裂に及んで開戰となりました、其時の小官の喜と云ふものは實に譬へるに物もないばかりでありました、彼是する中、クロパトキンは陸相より轉じて滿洲軍總司令官となつて旅順に參りましたか玆に再び會見した結果、小官を脫國者として露國陸軍中佐の資格を以つて參謀部の幕僚の一人に加へて下れました。そこで心竊に我が希望の達する時機を窺ふて居りまするに、此の遼陽をもつて雌雄を決すべき一大作戰計畫を立てましたから、此時こそ一身を抛つて父の遺志を果すと共に、露軍の全滅を謀らうと、苦心の結果、我軍人の捕虜となつて遼陽に居る者に計略を告げて一隊の決死隊を組織り、遂に今宵我軍の夜襲を奇貨として、殆んど十年間臥薪嘗膽の素志を果したのであります。」と感慨の情は溢れて、涙は頰に傳はつて居る、そして、彼男は腰に括たるガレゴール中將の首級と、衣嚢の中より二葉の圖面を取出して、青木大將の面前に差出し、「小官が前後兩度にクロパトキンに賣渡ました圖面は即ちこれであります、小官の赤心を明かにするため、今宵竊かに持出して參りましたから御一覽が願ひたうあります眞箇敵軍に身を投するための手段に賣渡したものでありますから、小官が唯筆に任せて拵へたもので、悉く事實と反したもので寧ろこれに依つて作戰計畫をする時は、自ら死地に陷入る如きものであります。又これなる首級は此方面の總指揮官であつたガンゴール中將の首級でありますが、眞箇戰死した證までに持參致しました。」青木大將は太く感歎されて、「能くも一身を抛つてかゝる大膽の行動を爲遂げたものだ。西脇少將も地下で笑つて瞑目するであらう、今日より特に本官の計ひを以て假復職を許すから左樣心得るが宜い、それにつけても憎むべきは足柄少佐である、苟にも帝國軍人として他人の秘密を材料に金錢を強請するとは卑劣極まる奴だ何れ相當處分を致すであらう」と、傍に居た近衛師團長は、「その足柄は戰死しました」「然うか、罪科は罪科、勳功は勳功だ、可哀相な事を爲た喃。」足柄の戰死と聞いて西脇と、後に控へて居た尾花少佐は、思はず顔を見合せた。



# 東洋拓植と暴徒

地方に於ける暴徒は我討伐軍の爲に漸次鎭靜せることは屢々報道に依りて諒知せらる所なり、統監府側に於ても暗に之を仄めかすこと嘗に一再に止らず、之に依り余輩は嘗に韓國の狀態を公表して世人が不安の念を除去するの必要を勸告したりき然るに未だ之が公報に接せず、何れぞ公然の發表に遲々たるや、余輩は當局者が何故に公然たる發表に躊躇するやを解するに苦しむなり、世人は之を以て暴徒の鎭定尚は未だ容易ならざるものあり、と誤解す、斯る誤解を生ずるは全く現狀を公表せざるが爲なり、余輩が公表を切に望む所以のものは當に此誤解を正して、世の邦人に安堵せしむるのみに非ず、今將に創立せられんとする拓殖會社の成立に大關係あるを以てなり、拓殖會社創立の發表も近きに迫り、次で起る株式の募集を見るべし[illegible]暴徒の鎭定如何に注目しつゝあり、若し夫れ一般の應募者にして公表なきを以て其鎭定を疑ふときは株金拂込に對して多少躊躇せざるを得ず、何れの點より考ふるも此際現狀を發表して世人の惑ひを解くは極めて緊要の事なりとす。

聞く處に依れば拓殖會社の創設に就て暴徒等が之を妨害するの檄文を發したりとの說あり[illegible]

[illegible]事實ならば決して輕視すべからざるものなり、會社の創立を速かならしむることに盡瘁せられんことを切に勸告するものなり。

## 對星樓茶話

△天道教主孫秉熙氏が漢城の人心を心醉せしめ、恰もマホメツトのアラビヤ沙漠より現はれたるが如き光景を以て韓人の崇拜を受けたりしは最早四年前となりぬ。

△彼の門前に於ては幾多の政事家大官謀士踵を接して縱拜したりき、謳歌したりき、今より追想すれば、巍峩たる天を摩するの殿堂は百萬の信徒を[illegible]其の周圍には偉大壯麗なる宗教的威化の光景を以て充たされたるなり。

△彼は其の光榮に浴しつゝある間に於て[illegible]政權に俗化せしめ、彼の恩恵を被むりたるもの[illegible]天道教を拜するもの一人も無し[illegible]其人也、彼の相談たりしものは大官となり、宋秉畯は其人也[illegible]新聞社を創立し、商社を設け[illegible]となりたり。

△斯くて尤も憐むべきは天道教主也、彼は[illegible]殴打せられ[illegible]

△彼の懷中は黄金を以て充たされたり、彼の富は天下の朋友に分配せられたり[illegible]天道教は實に數十の殘徒[illegible]孫秉熙と稱する[illegible]に至れり。

[illegible]全韓人の生活費[illegible]彼の富と人格は實に[illegible]疑惑を起さしめたる[illegible]歸るや黄金政略は[illegible]の勢力を張らんが[illegible]政社等に使用したる金額は少からざりき。

△[illegible]憐むべき天道[illegible]出でたる豫言者に[illegible]を驚かしたる山師の[illegible]先生の現狀を目擊し[illegible]

### 東京電報

[illegible]開說を絕叫するの日[illegible]

△十八日は一進會の紀念宴會開催の由、是[illegible]理由可有之、又伏[illegible]少康となりぬ、一進[illegible]すべきの時節たるこ[illegible]

## 軍事費繰延問題

臨時軍事費繰延問題は桂首相及び海陸兩相者間の上決定す昨年の六年計畫の繰延以後外に五千萬圓を繰延ることゝなれり

## 農商務の新事業

四十二年度農商務省豫算中重なる事業は森林事業費農事獎勵事業費等約三十萬圓なり

## 米國獨字新聞と平和論

桑港にて發刊する米國獨逸字新聞は日米平和論を公にして日米の衝突を否認し若し兩國開戰するの日は列國其渦中に投ぜられ未來は一大修羅場たらんと云へり

## 伊藤太師一行の歸磯期

關西地方漫遊中の伊藤太師の一行は十九日宇治を出發して岐阜に着し同地の市內を見物し翌二十日は同地に滯在し二十一日出發午後七時四十分大磯に歸着の筈

## 村上人事局長の豫備

海軍省人事局長村上敬次郎氏は豫備仰付けらる

## 經理部長の補任

橫須賀鎭守府經理部長兼主計局長福永吉之助氏は海軍省經理部長に補せらる（以上十六日發）

## 丸山總監の轉任

丸山警視總監は今回內地の某縣知事に轉任する事となれり

## 大博延期の議

或る事情の爲め四十五年の大博覽會は二三年延期するの議有力なる部分に起り昨今審議中の由（以上十七日發）

### 雜報

## 日韓瓦斯に對する市原盛宏氏の態度（某實業家談）

市原氏は第一銀行の取締役で亦同行韓國支店の總支配人である、ソウして同時に今度出來んとする日韓瓦斯會社の發企者の一人である、氏は由來企業好の人にて京城に來られて未だ三年ならざるに其間種々の企業を試みられたり、まづ第一が元京城日報の社長たる伊東氏と共同にて自働車會社を起さんとし次が仁川の秋田氏と共同にて韓國屠牛業を一手に收めんとする日韓畜產會社を起さんとせしが兩方ともに世間に反對の多かりしため其筋より特許を與へられざりしを以て遂に不成立に了れり、總て氏は彼の秋田氏が目論見たる東洋火災保險會社にも裏面に於て深き關係を有し盡力するところありしも故ありて之亦不成立に了りたり今度の日韓瓦斯會社も市原氏は會社創立首唱者の一人で始めより名を現わして盡力して居らるゝなり。

元來銀行家が他の營利會社に關係すると云ふは余程考へ物にて第百銀行の池田謙三氏の如きは銀行以外の事業には勉めて關係せざる樣に爲し居るとの事なり、而るに韓國の中央銀行とも云ふべき第一の重役たる市原氏が無暗矢鱈に諸種の事業に關係するは甚だ間違たることなり、若しも內地で日本銀行の總裁が自働車會社や屠牛會社に關係したりとせんか大藏省も一般官民も決して默過することはなかるべし。

今回日韓瓦斯會社の株金拂込に關し市原氏の態度鮮なくも世間の問題となり非難の聲四方に起りたる樣子なるが之市原氏が自業自得の致すところにして氏の爲には氣の毒なるも何とも致方なきことなり、傳へ聞く市原氏にして今後も尚前日の如く瓦斯會社の成不成を冷淡視するに於ては氏の心事は益々世人の誤解するところとなり果ては累を第一銀行に及ぼす樣の事無しとも限るべからず、余を以て見れば今日の處市原氏が假令へ心得違なりとは云へ已に關係したる以上は相當の盡力を爲して一日も早く日韓瓦斯會社を成立せしめ其成立と共に同會社と自家の關係を絕ち自家の今日の地位の大切なるを自覺して一意專心第一銀行內に於て働き他に如何なる有利の事業あるも之を顧みず親しく韓國中央銀行總裁の本分を盡さるが肝要なりと信ず云々

## 官選府令撤廢要請

平壤民團議員及び有志は去六日箕陽俱樂部に會合し民長官撰問題に就て協議する所ありし結局統監府令第二十三號の撤廢要請をなすに決し爾來其の要請書を起草し民間有志の重なるものに回附し同意調印を求めつゝありしが昨日中に略々調印を終りたるを以て、右要請書は既報の如く十六日理事廳の手を經て正式に統監府に提出する筈なりしと其の要請書左の如し

謹んで申上候、今回統監府令第二十三號を以て從來選擧に依り居留民團民長を統監府の任免に依ると改められたるは某等の等しく意外とする所に有之乃ち左に卑見を述べ敢て該府令撤廢の希望を開陳仕候某等は民團議員及び有志にして當平壤民團多數の意思を代表するものに御座候此儀又然るべく御諒察奉仰候也

民長選擧は民團自治權の主要なる部分なり吾人居留民に取ては事實上既得の權利なり某等は此の權利の益々尊重せらるべき所以のものたるを知るも未だ不幸にして其の毀損せらるべき道理あるを信ずる能はず然るに此の權利は七月二十二日發布統監府令第二十三號を以て全然消失に歸し民長は一に統監の任免に依るとせられたるは某等の大に意外とし且大に怪訝とする所なり推ふに此の政變たる從來の民長選擧には種々の情弊を伴ひ有力なる民長を得難く又民長をして公正に其の職務を執行し能はざらしむるの結果を生じ民團自治の健全なる發達に妨ありと爲し則ち之が匡救の手段として決行せられたるものならんか果して然らば其の精神は某等の最も諒とするところ我が居留民團に在ては爾く甚しき情弊の之あるを認めざるも亦願みて自ら戒め努めて情弊の生せざるを期せざる可らざるや固より其所なり而も斯の如き理由の下に民長を官選となし居留民の民團自治權の主要部分たり將た吾人居留民の既得權たる民長選擧の權利を一朝にして消失せしむるは固さ是れ善意に出づるにもせよ某等は不幸にして其の是なる所以を解する能はざるなり其の尊重せらるべき權利の却つて全たく毀損し盡されたるは吾人居留民の不能亦た與つて力あるべしと雖も特種重要の理由を備へざる限り某等は之を以て至極その當を得たるものと認むる能はざるなり夫れ撰擧には必らず多少の情弊を伴ふを常とす日本內地の自治團に於ても撰擧に伴ふ情弊の紛々たるは何人も夙に知悉する所なり況や自治體として創設日尙ほ淺く根底猶ほ堅からざる我居留民團に於てをや某等は其の情弊を止むを得ざるものとして閑却し去るものにあらずと雖も此の情弊が民長を官撰と爲すことに依て全く刈除せらるべしとは到底信ずる能はず撰擧の物より生ずる情弊の如き幾分か或は防遏せらるべしとするも之と同時に更に別種の情弊を生ずるなきか大に疑はざるを得ず官撰民長と吾人居留民との間に意思及び感情の阻隔を來たし延て諸種の紛爭を釀さゞるか大に危まざるを得ず某等は固より紛爭なきを期し情弊なきを計らざる可らずと雖も斯の如きは固と勢の致す所にして區々人力の亦奈何ともなす能はざる事に屬す某等は今より此の憂慮を抱くことの決して不當にあらざるを信ずる者なり靦て茲に來らば民長官選は畢竟一弊を去て更に一弊を釀すものと謂はざる可らず民團自治の健全なる發達に資する所あらんとせし折角の企圖も殆ど無效に歸するものと謂はざる可らず果して然らば斯の如き制に依て民團自治の主要部分たり將た吾人居留民の既得權たる民長撰擧の權利を消失せしむるは決して其當を得たるものと謂ふべからず抑々亦斯の如くんば決して特種主要の理由ありて決せられたるものと信ずる能はざるなり今後益々自治の發達を圖り進步を期すべく微力聊か盡す所あらんと欲するに當り一朝にして斯の如き損失を受くるに至りたるは其の實施迄に前途尙多少の期間ありとするも某等の到底堪ゆる所にあらざるなり是れ爰に卑見を開陳し敢て統監府令第二十三號の撤廢を希望する所以なり

平壤民團議員及有志一同

統監代理曾禰副統監宛

## 鎭南浦の反對

民團議員の議決

民長官撰問題に付鎭南浦民團議員諸氏は去十四日夜民役所樓上に協議會を開き左の決議を爲したり

決議

一統監府令第二十三號を以て發布せられたる「民長は統監之を任免す」との府令は左の理由に依り之に反對す

理由

一該府令は民團自治の精神に背馳するものなり

一該府令は官民の反目を招致し將來紛糾の禍痕を貽し民團の發展を阻害するものなり

一我民團議員は此際徒らに輕擧に出で議員の職を辭するが如きは決して民團に對し忠なるものに非らずと認むるを以て飽迄善後策を講じ穩便なる方針に依り强硬に其意思を發表する事

一官民の不一致は我民團の進步發展を阻害する事多大なるを以て强いて官選民長を實行せらるゝの場合に就ては我民團は其阻害を匡正するに務め阻害避く可らざるに於ては斷然たる處置を取り當局者の猛省を促がす事

一對官選民長問題陳情委員三名を設け理事官に對し反對意見を陳情すると

右の決議に從ひ委員には原田新居岡田の三氏を擧げたるが三氏は不日理事官に對し意見を陳述する筈なりと

## 梅博士の放言

博士梅謙二郎氏は新聞紙及民長問題に關し過日安東縣に於て左の如く放言せられたり

新聞事業も滿韓に於ける諸新聞を見ると動もすれば經濟の苦境に陷るが爲め所謂人氣買の手段から突飛な議論や不謹愼な報導をして個人の攻擊國家の利害を無責任に遣るものが多い樣だ現に韓國に於ける新聞紙の如きは今の統監政治を輔翼して其の成蹟を完くする樣に勉むるは日本人の責任であるのに拘はらず動もすると內端から非難の火の手を擧げる又如何に一地方の小新聞でも其の紙上に出した記事は外國に飜譯されて往きた時には矢張り日本人の手に成る何新聞が斯樣な記事を出したと傳へられて外國人の眼には中央の大新聞と同じ樣に重い責任を其の記事に負はされねばならぬ、之れが爲め輕忽無考へなる新聞の筆鋒か如何に外國人等の誤解を招くかといふことは予が特に滿韓在留の新聞記者諸氏に注意を求むる處である▲民長官撰問題は隨分八ケましいけれども今更ら之れを民撰に復するといふことは統監府の方針では無い樣であるが既往の民撰民長に關する弊害の歷史もあるのみならず現に京城邊の有力なる民間人士には表面此の人氣問題に反對を唱へてはゐれども矢張り官撰說に贊成のものが多い

## 東京經濟雜誌反對

韓國在留民に對し統監府は民團長を官選にすることにしたので、新聞記者を始め有志が昨今反對運動をやつて居る、官選說は日本人在來の國民必理を示した者で役所は御役所だけに舊式な考を持つてやらうとしたのだが日本では市町村制の自治でやつて居る其所から出た民團なれば、民選にしたとて何も不都合はあるまいと思はれる、統監府が全體を監督すれば差支ない話である、民團は民團で官團でない以上民團法によりて自治に任かすとも取締に不便はない筈である、一躰何處までも役人風の官僚主義でやらうさするのは日本の發達しない一大原因である、朝鮮界隈で今から故意に官民衝突を招かしむる必要はないではない乎

## 仁川民會と民長問題

仁川民團に於ては來る廿一日午後六時より民役所樓上に於て第廿九回民會を開き木害地修理費其他を審議する外民長官選に對する議員の態度を議決する所あるべし

## 統監府重要會議

曾禰副統監石塚長岡の兩參與官中村內部書記官等統監府幹部連は昨日午前樓上會議室に於て何事か議するものゝ如くなりしが多分拓植會社設立に就てなるべし

## 韓米樺太輸出

北海道小樽の貿易商大野某氏は釜山の大池氏と韓米二千二百石の取引を爲し尙其他にも購入せし韓米合せて四千三百石を過日釜山發の帆船にて樺太に向け回送せられたり

## 參圃保護警官派遣

內部警務局は度支部の要求により開城に於ける參圃保護のため警部一名及び巡查廿七名を派遣したるが今回更に十名の巡查を增派せりと云ふ

●久松中佐　滿韓視察として過日東京出發滿洲視察中なりし陸軍步兵中佐久松定謨伯は一昨日北清より來京天眞樓に投宿せり

●白川中佐　陸軍步兵中佐白川義則氏は久松伯と共に來京天眞樓へ投宿

●瑞典武官入京　瑞典國砲兵大尉シーハルゲン氏は視察の爲め十四日入京アストルハウスに投宿十五日軍司令部を訪問したり同武官は一週間位滯在の筈なり

## 近事片々

▲治外法權撤去は伊藤公の專心なさんとする所也之れが爲に輻輳たる桂侯の要請も斥くと

▲伊藤公の治外法權撤去の方法は韓國の法律制度を完全にして之に依て行はんとす

▲統監府は之が爲に韓國法典の制定に鋭意努めつゝあり完成遠からざるべしとの事

▲刑法刑事訴訟法裁判所構成法の如き既に完成し今や民法及裁判官任命の制定中なり

▲斯くして列國の能く之に信賴すべき程度迄改善せんと頻に其完成を急げりと云ふ

▲然れども之を運用する日人法官をして韓の風俗習慣古例舊典に通せしむる必要有る事

▲同時に韓語に通せしめ一切萬事通譯の依る事なき樣にせざる可らずとの意見なりと

▲果して以上の如くなれば茲四五年の歲月を要するなり是ぞ全くの伊藤式なるべし

▲以上を事實として推想すれば治外法權の撤去は五年後の事なるべしとは[illegible]

▲韓太子の關西漫遊の報導が昌德宮及德壽宮に達し兩宮人の喜悅一方ならずと云ふ

▲到る處日本國民の熱誠なる歡迎を受く其實況を聞かば韓國民一般大に感激せん乎

▲韓太子の歡迎に依り如何なる猜疑の韓國民も日本の韓國に對する誠意を解せん乎

▲伊藤公韓太子に陪乘宿醉の爲に車中に眠りて京都府民の歡迎に相揖せずとは眞乎

▲果して事實ならば如何に伊公と雖も餘りに謹愼を缺げる所爲ならずや亦無禮至極

▲英米同盟米清同盟と米人が日本に對する反感は愈々增長する傾あり是何等の徵ぞ

▲紐育ヘラルドの米清同盟論に對し清使伍廷芳の無遠慮なる發言今や一問題となる

▲苟も一國の使臣として斯る暴言を逞ふす清國政府は我に對し謝する所ありて可也

▲清國が米國と同盟して日本の勢力を防壓する杯は甚だ間違ひの思惑唯笑ふべし

▲東洋に於て日本の勢力を驅逐せん杯とは全く痴人の夢事實に於て到底行れざる也

▲祖國青年男女の墮落は極點に達し今や多少反動の風起り來らんとする傾向現はる

▲女學生の減少と男學生が武士道に嗜き書生の間に尙武の氣多少現れ來る喜ぶべし

▲自然主義の餘波滔々として流る書籍總監散步して春畫寶を見つけ大檢擧を爲す

▲檢擧の結果牛紙形八萬枚餘書葉書七万其他畫帖等數万を押收したりとは頗る快也

▲是れ畢竟自然主義の賜力耳今や反動は沛然として濁風を排擊するの傾ありと云ふ

## ●奇美人（續）

▲元は淫賣婦今は洋妾 ▲下げ髪に二尺の赤リボン ▲チリメンの兵兒帯をダラリ

サテ美人の名はキクといへるが縹緻はマヅ十人並をすぐれし方にて唯口の少しく廣がり居るが瑕といへば瑕なれど別に醜しといふ程にはあらず流石は花の蕾の頃より旦那取をなせし程丈ありて自づと何所やらに婀娜な妻の艶なる所あるは三筋の稼業に身を置す藝妓等の中にても其の類稀なるべし母は彼の世へ旅立する前に吾が娘の西洋人の許に囲き居るとは云ひ世間にていふ日陰者でなきをある人に辨解せしとか云を聞くに元々自分等親子のものは草藥にて小商賣を爲し居りしものゝ未だ最愛の娘に操を賣らしめた爲は露程もなく又現在の娘の旦那パリヨンドンドン（佛國人）といふは其の頃釜山の佛國領事たりし某氏の周旋にてタツチ娘をた嫁にとの懇望故折角の切望を滿更無にする譯にも行かず已むなく娘を遣はせし次第にて決して妾の權妻のといふ譯ではなしとかの話なるが何れにしても今は死人に口なし果して母の言葉通り本要にやりしや否やは疑はしきも又別に其の邊のことは敢て詮索の必要ながるべし話し變はつて娘には母が身かりし此方は恰かも雨に惱める海棠の如く氣の毒にも痛く打ち愁れ悲嘆の涙さめざめと日夜乾く隙とてはなく唯一室に閉ち籠り居る由なるが噂さに聞けば娘の悲嘆は單に母の果敢なくなられしのみではなく母が病死せしと同時に娘が一夜の通夜をなさんと忍びて竹園町なる母の住所に赴きしに旦那どいふが業を煮やして家に歸るやうにと迎ひに來りし爲めツヒシミジミと通夜をすることも叶はず一生一度の死別に名殘り惜き無く母者人の枕許に侍ることの出來ざりしを痛く憾みに思ひ斯くは一層悲しさと恨めしさとがいや增して氣も心も沈み只一室に嘆き居るとかいふソレかあらぬか近頃は母が平素より親しくなし居りし近所のある媼さんを己が邸に呼び寄せ母が生前の話しやら又は世間の噂等にて何分か氣を紛らし居るとかの投書のまゝ（終）

## ●忠清北道の稻作

忠清北道忠州方面を旅行し歸京したる人の談に依れば同方面に於ける稻作の狀況は最も好況を呈しつゝあるが如し就中清州附近は例年十五萬石の米穀を產し最も稻田に富む地なるが本年は雨水潤澤なりし爲め例年乾田となるべき所にまで灌漑行き渡りしにより其心にて苗代を施せしも右の如き狀況なれば二度の苗代をなして挿秧せし程にて苗の剩餘の如きは、も見るなく發育非常に良好なれば今後虫風害さへなくば例年になき豐作を見るならんと農民等は非常に喜び居れりと

## ●龍山質屋組合組織

近時龍山の發展と共に質屋營業者の數遽かに增加し來り目下二十一戸の多きに至りたるを以て此際一の組合を組織し各自營業上の聯絡を圖り且つ同業者間に於ける種々なる弊害を矯正せんとの趣意にて去る十五日午後二時より桃山温泉場に同業者の集會を催し組合規約を議定したる後役員の撰舉を行ひ伊藤智祐氏を組長に齊木庄太郎氏を副組長に勝木、大塚、馬場の三名を評議員に舉げ終つて懇親會を開きたりと

## ●南山の音樂堂

京城樂友會にて經て計畫中なりし南山公園の音樂堂は愈々建築の運に至り墳水池近傍に工事費八百圓を投じ西洋風八角形のものを建設する筈にて本日頃より工事に着手すべしと落成の後は南山公園の一美觀を呈すべし

## ●二人組の竊盜

香川縣平民大久保万吉（一九）大阪府平民安村繁太郎（二八）の兩人は本年五月咸鏡北道淸津港に渡來し爾來七月六日迄三ヶ月に亘り淸津羅南鏡城の間を徘徊し共謀して十六戸に忍び入り衣類雜品百十餘點價格五百餘圓を竊取し巧みに踪跡を晦ませしが淸津警察署に於て搜査の結果七月廿二日兩名共に逮捕され贓品見積價格四百餘圓一件書類と共に同地檢事局に送致さる

## ●韓女の投身

西部盤石坊新村洞四統五戸金士俊の妻なる崔姓女（五七）は十六日午前二時自己住所を離る西南三町餘に在る共同井戸に身を投じて即死したるが全身紫黑色を帶び腹部は大きく膨れ鼻口よりは些少の出血を認めたるが死因は數年前よりの病症を苦にしたる由に平常の藥石の効なきを深く嘆き居れる故其の爲めならんと云ふ身体は其筋の檢視を經て夫士俊に引渡されたり

## ●駈落藝妓の雲隱れ

山口縣山口町大字久保小路布谷ヤナ方抱藝妓金澤トワ（二十）は前借八百圓に抱へられ二百圓は既に支拂ひたるも六百圓殘り居たる爲め一生懸命に稼ぐ中坂田太郎なる金時見た樣な强そうな男と深くなり遂に五月廿八日の夜二人手を取つて馬關に駈落し二三日間同地に滯在し動靜を窺ひ居りしが追手も懸りそうになきを察し此れでは大丈夫之より朝鮮に渡りて二人嬉しく浮世を茶にして暮らさんと玄海の荒浪を夢に過ぎ六月一日釜山に上陸し直ちに京釜線列車に乗り込みて京城に入り南山町四丁目に假りの宿を定めて夫婦然として潜み居りし所を去る十五日追手たるトワの實父が之を見認められ同夜直ちに夜行滊車に乗り込み元の古巣に連れ歸る筈にて夕飯の折りから妾しは一寸便用に行きますとて立去りたるまゝ妾を隱しだるにぞ實父は折角捉へたものを一寸の油斷で取逃したとはチエー殘念と地團太踏みて見たれど跡の祭りて諦めもされず現に角南山町二丁目邊に隱れ居るに違ひないどれトワヤアイと專ら搜索中なりと

## ●賭場の手入三件

明治町三丁目百六十五番戸下宿業安部友太郎方止宿人山口縣平民石工重國友藏（四三）旭町一丁目百二十六番戸小原茂太郎方石工重廣百合藏（二三）の二名は一昨十六日午前二時半頃安部方二階に於て他四名の者と花札を以て金錢を賭し居る所を巡査に踏み込まれたれば之れに驚き四名の者共はスツと云ひ樣屋根を越へて逃げ去りたるも前記の二名は其場に於て取押へらる▲次ぎは之れも明治町二丁目五十番戸雜貨商兵庫縣平民松島マサ（三一）方同居福岡縣平民石工廣田文治郎（三三）明治町二丁目五十四番戸田川福次郎方同居京都府平民石工倉貫虎吉（二六）同岡山縣平民石工竹內濱太郎（三一）同靜岡縣平民石工吉野力藏（二八）同谷口末吉（三三）の六名は十六日午前三時マサ方三疊半の奥坐敷に於て賭博中四名の巡査に踏み込まれ珠數繫ぎとなりたり▲其次ぎは龍山大林組第一號宿舍石工藤原芳吉（三五）同吉居房吉（三二）同富野禰太郎（四〇）壽町二丁目十二番戸同田中久吉（四三）旭町三丁目三十五番戸土木業吉川兇次郎（三四）同石工園島鐵三（三五）本町裏通土木受負野村吉三郎方十河孫太郎（三八）の七名は一昨日午前五時頃旭町吉川方に於て賭博中四名の巡査に踏み込まれ之れも又珠數繫ぎとなれり





## ●韓人の喧嘩

一昨日南大門通り前目賀田顧問邸前の街路に多數の人が集り居るにぞ巡回中の巡査は何事ならんと馳付け見しに喧嘩でもしたるものか長洞居住徐昆伴（十九）なるものが新町附近に居住する鄭汝車（二十）なるものより毆打せられ血塗れとなり居るにぞ一應徐を南部署に連行し鄭は專ら搜査中なりと

## ●三度同家を覗ふ

西部倉洞九統九戸黃龍得（二一）は十六日午前六時壽町一丁目堀警部宅を窃に覗き居たるを同家下女之を認め誰れですと問はれて一目散に逃げ去らんとする處を巡査の手に取押へられ取調たるに龍得は伊東祐侃なる名刺を懷中し居たり尚去る七月中旬同手段を弄して同家温突內に侵入し居たるを同じく下女に發見せられたる事ありと又同家にては六月下旬長靴一足を窃取せられたるが或は此者の行爲には非らざるかと目下留置中

## ●チヨンガの賊

西部社稷洞朴竜百（一八）は長谷川町一丁目一番戸洋服商富田商店の雇人なるが十六日午後七時頃同店棚に置きありしボタン四十八個（代一圓二十錢）を窃取し逃げんとするを同家の內儀に摑まれたり此の外に內儀の財布より一圓を窃盜したることを自白したれば目下警察署に拘留取調中

## ●此も自然主義

所は新町大桝屋に眞瓜喰ふたの助とかいふ妙な名の娼妓あり源氏名を[illegible]なんと呼べるが此の女[illegible]來いたツて眞瓜が大の好物にて眞瓜ならタトヒ毒とは知つて居れど命を棄てゝも未練はないと迄平常から口に出して力んで居る程の眞瓜好きなるが丁度一昨夕肌を冷やす涼しき夕風にウツトリとして表の二階の欄干に凭り掛り居りしに折柄十五六のチヨンガーがさも旨さうな眞瓜を澤山とチゲに載せ眞瓜サリヨーサリヨーといひながら直き眼の前を通り掛りしより女は此れはよい所へ眞瓜賣りが來たものと大に喜び早速階子段を降りて下に行き一個二錢五厘づゝにて四個を買ひ求めしはよきも其の儘皮をも剝がずイキナリ嚙り附きとう／＼四個の眞瓜を一寸の間に皮迄平らげし豪さには實際側で見て居つた流石の朝鮮人も舌を捲きしとかサテ又話し變はつて茲に女のれ客といふは其の時飲み過ぎの咽の非常に渇きて何にか冷たいものをといろ／＼考へた結果仲居に吩咐けて西瓜を取り寄せしが自分許りで喰べるのも他の手前何となくシミタレのやうに見ゆれば樓內一同の者を呼び集めタント許りに馳走をなしたりしに其の際又々白糸は其の席へ入り來り眞瓜丈けでは此中の虫が承知しません皆さんれさきへと許りに富士形に切つた大きな所を七ツ八ツへロリと滅ぼしたりしかば滿座のものも今更らながら呆れ果てマア白糸の召し上るのには驚きましたねと顏見合はせしばしは茫然たりしとかの雀の立ち咄しなるがもし本眞の事とすれば餘程白糸姫さんは胃袋が頑丈なものと見ゆ



## ●貯水池遊浴に就て

過日の紙上に記せし南山居留民團水道貯水池にチゲ其他のもの水浴をなして貯水池を汚すとのことは探聞するに依れば別に左ることとなきが如し

## ●紀念章の主は誰れ

鍾路派出所の巡査が十五日韓皇德壽宮より還宮路上警衛の際即位式紀念章一個を拾得したり心當りのヨボシユはなきか

## ●自轉車小兒を轢く

內部事務官武田胤雄は一昨日午後二時頃自轉車に乗じ通行中竹洞五十七統十戸李七峯（十二）の足を轢きたるも別に負傷等はなかりし

## ●廣告提灯を破る

旭町三丁目疊職笠直藏は一昨日午後疊を擔ぎて同町の按摩赤木重松方の前を通りかゝるや重松が廣告の爲め吊せし提灯に衝當り之を破り損害金二十錢を辨償したるが主人が盲だから提灯の必要もあるまいとて破りたる譯でなく過ちなりと




## ●待合春日の設備

本町二丁目北裏手なる待合春日は今回洋風の增築をなしたるを機とし琵琶、ヴアイオリン、尺八、笛、月琴、碁、將棋等の娛樂器具を整置して席料も低減し諸事に改善を加へたりと

## ●演藝だより

▲各料理店藝妓の寄贈　目下歌舞伎座に於て興行中の伊東文夫一座に對し花月の藝妓仲居百圓の引幕、掬翠樓藝妓仲居より六十圓の花束を寄贈し淸華亭藝妓仲居よりも寄贈する所ありたるが花月の引幕は一昨夜より張り居れりと云ふ

▲歌舞伎座本晩の藝題　同座は昨夜廣津柳浪作目黑巷談を演じて好評を博したるが本晩の出物はシエークスピーヤの四大悲劇中の『オセロ』を再演することに極りたりと

▲本町座　白川一座は伊東一座と相對して鎬を削り大車輪にて演ずることゝて歌舞伎座に劣らぬ人氣を博し大入を占め居れるが昨日よりは更に田宮貞雄を客員となし一井秀夫外四名を加へたれば一段の光彩を放つべし本夜の出し物は家庭小說『母の心』にて重なる役割は左の如し

部江（一井）金六女房（今井）植屋金六（石巻）書生高野（栗山）女中お雪（堀江）若い者三吉（土居）野本道夫（田宮）牧山常助（南郷）常助女房（中川）書生富山（松本）小杉お代（小泉）和田長吉（秋山）下男權助（秋岡）巡査佐々木（佐藤）小使與助（喜多）母初子（三浦）娘お玉（四位野）女中お花（島村）令孃繁子（敷島）野本貝夫（白川）



## 暑中御見舞

編輯小僧

お役人諸君へ

何と申しても朝鮮に於けるお役人諸君程割の良き商賣は無之候、內地で夫婦掛け向ひに子供の一人も有る判任官などでは生活上些の餘裕とては無之否な寧ろ晩酌の一杯も召し上る方にありては何うしてく却々に苦しくソレこそ稀屋の細工場へ行つたやう「取つても取つてもタラン／＼」で其日を送らねばならず候が併し韓國にありては月給以外にヤレ手當とかヤレ舍宅料とかヤレ何んだとか彼んだとかの名目の下に餘分の收入有之候へば暮し向きも至つて安樂に從つて何程づゝか貯金も出來る勘定に候尤もソコが人間の弱點にて金がイクラでも餘計に這入るにつれて段々贅澤の心を起し洋服も此れでは舊式だとか紙は露西亞皮に限るとか又甚だしきは妻子の有るにも拘はらず、傾斜の巷に足を投ずるやうの傾きに相成候が此等は實際愼むべきことゝ被存候もし御斷遊びあらば上官の所へビールの一打も搬發し、將來の出世を圖るやういたされし方得策かと存候敬白

電話七九番　高等洋服裁縫　西岡支店　京城長谷川町一丁目　東京日本橋區通二丁目十二番地　西岡本店　電話本局二六八九

## 老妓 茶羅次の身上話（十五）

◎色男の寒さらし

暫時家の圓遊さんでは可笑しなれ話がムいますよ圓遊は我家に居るとナカ／＼眞面目だつていひますが座敷などで一所になると高座でトボケた事を云ふ機に矢ッ張面白い人でソリヤア愛嬌がありますよ随分古い事なんですが深川のある御別莊に忘年會で妾達も聘はれ圓遊さんとも一座でしたが酔つたまぎれに前後の考も無く圓遊さんは鼻つきと謂ひ調子と謂ひ何と無く好いたらしいよ彼の男となら一度位は苦勞をして見ても宜いチッてな事をいふと其處にゐいでの皆さんがたちやらと圓遊は好い取り組だ是非二人で浮名を流して見せて貰いたい此處は他の藝妓に盃して置て早く何處へ連れ込んだり／＼なんてれつしやるのでしよふ酔つてるから堪りません如何せ評判になつちまつたものだから夫れおやア圓遊さん二人手に手を鶏が鳴くッて事に仕様ちやアありませんかつて呑氣です左様ならッてれ暇を頂き人車を二臺誂へてガラ／＼ッと吉原へ梶棒を向けさせましたが何しろ押し詰つた歳暮の二十八日といふ用のウンとある時なんでしよう連れ出す女も連れ出す女だが連れられて行く男も連れらて行く男でイヤハヤ手のつけられない代物同志ちやアありませんか

目差したあづま屋といふれ茶屋さんに着いたので圓遊さんに妾が相圖をするからそうしたら這入つてれいでなさいッて斷つて置て先づ妾だけ今晩はッて上り込みましたが何しろグデン／＼に酔つて居たので女將を始め女中さん達と何だ彼だつて話をして居るうちにツイ催眠くなつちまつたので圓遊さんを外に待たして置いた事なんぞは忘れッちまいまして御免なさいよッて横になつたなりグー／＼寢込んぢやつたのでしよう酔つて居たとは謂へ随分な仕力で外に待つてる圓遊さんの身になつたら何の位つらかつたか知れやしません其後になつて圓遊さんに遇ふと怨の數々れちやらさん位世の中に酷い女は無い相圖をするといふから今か／＼と電信柱の影に立ち盡して極月の寒晒しヒユー／＼吹く風に縮み上る苦痛をジッと辛棒して待てども／＼相圖が無いので如何したのだらうと氣が氣で無い其うちに東が白みだして夜が明けかゝつたが夫れでも相圖があるかと待つて居ると多町の青物問屋の旦那に見つかり何處に居るのは師匠ぢやないか何だつて今時分吉原なんぞをウロツイて居るのだ女房に惡いから女郎買なんぞは廢して早く我家へ歸んねぬッグッ／＼して居るのを無理やりに引ッ張つて往かれたつていふ事でしてまア飛んだ氣の毒な事を致しましてす今でも圓遊さんと顔を合せると其事をいひ出しては大笑いをするのですよ


































●新聞料　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金廿五錢▲三ヶ月前金七十錢▲六ヶ月前金壹圓四十錢▲一ヶ年前金貳圓七十錢
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人　秋山忠三郎
印刷人　高木久馬太
發行所　京城新聞社　京城西小門通　電話六六三番